

2024 年度

(令和 6 年度)

施政方針

2024 年 2 月

安芸高田市

目 次

1. はじめに	1
2. 行財政運営の基本方針	2
3. 主な事業	3
(1)教育の推進	3
(2)福祉の充実	3
(3)生活基盤の整備	4
(4)産業の振興	5
(5)文化の発信	5
4. おわりに	6

1. はじめに

市政運営に関する所信と 2024 年度当初予算における主要施策の概要について説明します。

昨年は新型コロナウイルス感染症を巡る緊張感が和らぎ、社会経済活動にあらゆる場面で復調の動きが見られました。

そうした中、市では毛利元就の入城 500 年記念事業を通して、一層の活性化に取り組んでいます。各種のイベントを催し、市内外から多くの参加者を集め、市のブランドが再構築できました。とりわけ、新名物として誕生した「あきたかた焼き」は早くも県内外でたくさんの方に親しんでいただいています。

また、サンフレッチェ広島のマザータウンとして、パブリックビューイングの開催や広報誌による情報発信、サッカー公園の人工芝の張り替えなど、サンフレッチェ広島の活躍を全方位で応援し、共に盛り上がっている環境が整ったと評価しています。

神楽は、振興を狙った事業を積極的に展開しています。G7 サミットや世界遺産である京都の醍醐寺、宮島で初めてとなる公演を成功させ、広島県を代表する文化として着実に活動の幅を広げました。国内だけでなく、海外での展開も視野に入れられるだけの土台を築けています。

この間、YouTube や各種 SNS によって、市の知名度は桁違いに高まっています。YouTube のチャンネル登録者数は、2024 年 1 月に自治体として日本一を達成しました。こうした認知度は各種事業の大きな推進力になると同時に、YouTube の広告収入等として貴重な財源にもなっています。

2. 行財政運営の基本方針

それでは、行財政運営の基本方針について説明します。

依然として、本市が抱える構造的な問題については、楽観が許されません。予算編成では、市の将来のために人口減少に対応した持続可能な財政運営に切り替えることを意識しています。

全ての事務事業において、2023年度の取り組みを精査し、ゼロベースで見直しています。併せて、「公共施設等総合管理計画」に基づき、可能な限り公共施設に係る費用の抑制に努めました。

財政説明会において「20年後の危機」という言葉を使ったとおり、このままではやがて財政は行き詰まります。この危機を回避するため、「施設の廃止スケジュール」を見直しました。その結果、2034年度までに公共施設の総延床面積を37%削減し、更新費用や維持管理費用を大幅に圧縮できる見込みとなっています。この廃止スケジュールは、定期的に見直しを行うとともに、準備が整った施設は前倒しで廃止していく計画です。

並行して、あらゆる行政サービスで受益者負担の適正化を進める方針です。さらに、長期的な視点では、市のコンパクト化を促し、インフラ資産の更新費用を削減していく必要もあります。

安芸高田市を持続可能なまちにするためには、一人一人の正しい認識と行動が必要です。安芸高田市を「続ける」ためには「変える」しかありません。

3. 主な事業

続いて、2024年度の主な事業について説明します。

(1) 教育の推進

1点目は、**教育の推進**です。

まず、将来世代への投資として、小中学校の給食費を無償化します。子育て世代の負担軽減となるだけでなく、学校での給食費の徴収事務が軽減されるなど、教職員の働き方改革にも繋がる取り組みです。

ソフト面では、生徒会長を中心に、中学生が世界に踏み出す一歩を応援するため、新たに短期留学事業を実施します。海外に触れる機会を提供し、次世代のリーダー育成と生徒会の活性化、引いては政治への関心を高める狙いです。

ハード面では、快適な教育環境が維持できるよう、小学校体育館の空調整備に取り組みます。また、ふるさと応援基金を活用し、小学校の机と椅子を全て新JIS規格に更新していく計画です。

市内の高校については、生徒会の活動を支援します。高校の魅力化を目指して生徒会に補助金の使途を一任する事業で、高校生の挑戦と成長を応援します。

(2) 福祉の充実

2点目は、**福祉の充実**です。

子育て支援については、産後ケアを推進します。宿泊型、通所型、訪問型の3つの形態を浸透させ、安心して子育てができる体制を拡充する方針です。また、保護者の育児や家庭環境に関する不安などについて相談や

指導を行う枠組みを整え、子どもの健全な育成を推進していきます。

高齢者の介護予防については、地域の集会所へ保健師や運動指導士が出向いて健康教室を開催するなど、より多くの市民がフレイル予防に取り組める体制を整備します。

医療については、がんの早期発見、早期治療に繋げるため、総合健診や人間ドック健診とは別に身近な医療機関で、がん検診を受けることができる機会を拡充します。

(3) 生活基盤の整備

3点目は、**生活基盤の整備**です。

まず、中長期的な展望を描いた「安芸高田市総合計画」を策定し、今後の目指すべき都市像を示します。

災害対応については、防災・減災の備えを一段と強化する方針です。ハザードマップの有効性を上げるため、改めて土砂災害警戒区域に居住する方を対象に個別通知を送付します。また、1年に1回は備蓄品を確認するよう定めた11月19日の「備蓄の日」などを通して、自主防災活動を促していきます。

インフラについては、ニーズに合わせた合理的な投資を行っていく計画です。携帯電話などの無線通信が行えるよう、高宮町用地地区に鉄塔を整備するなど、通信に関する利便性の向上に取り組みます。また、下水道処理から合併浄化槽処理への切り替えを含め、効率的な施設の統廃合を行うため「汚水処理基本計画」の策定を進めます。社会情勢の変化を踏まえ、幅広い市民が利用可能な合葬墓を整備するための基本計画を策定します。

(4) 産業の振興

4点目は、**産業の振興**です。

まず、格段に向上した市の知名度・認知度を活かして、市の魅力を内外へ発信し、事業者の支援に繋げていきます。ふるさと納税制度に関しては、財源の確保だけでなく、返礼品を介した市内事業者の活性化を狙って引き続き注力します。

観光施設については、経営改善を図りつつ、老朽化が進む施設の改修などを織り込んだ運営方針を検討します。個別には、株式会社神楽門前湯治村とたかみや湯の森運営協会の経営統合によって、運営の効率化と集客力の向上が実現する見込みです。

鳥獣被害対策については、広島県全域での支援組織を通じて、農家への相談や指導などを拡充するほか、わなによる捕獲を全市に普及させる取り組みを進めます。また、捕獲者の負担軽減を図るため、処分場の改修設計を行う計画です。

サンフレッチェ広島については、世界に通じているサッカーの魅力を市の活力に繋がられるよう引き続き応援していきます。全試合のパブリックビューイングを道の駅三矢の里あきたかたで開催するとともに、新スタジアムでのホームゲームを毎試合観戦できる機会を創出するなど、ファン層の拡大に注力する方針です。

(5) 文化の発信

5点目は、**文化の発信**です。

対外的な知名度向上を狙って実施した毛利元就入城 500 年記念事業の「山守プロジェクト」や「リレーマラソン」といった各種イベントを引き

続き開催し、まちの賑わいづくりに活かします。

神楽については、関西圏のさまざまな地域で展開を図り、「あきたかた神楽」の魅力を発信すると同時に、関係人口の拡大に取り組みます。また、「EXPO2025 大阪・関西万博」での出演を目指し、日本を代表する文化として世界に打ち出していく方針です。

4. おわりに

ここ数年で、財政に関する指標は確実に改善しました。2019 年度に 98.2%まで悪化した経常収支比率は 2022 年度に 94.4%へと改善し、2018 年度の災害後に 6 億円まで減った財政調整基金は 2022 年度に 9 億円まで回復しています。

このように財政健全化を進めつつ、「未来への投資」に取り組んできました。言い換えれば「世界で一番住みたいと思えるまち」に必要な要素を集めてきました。教育環境の整備は、その最たる例です。他に、文化や産業の振興も重視してきました。

なぜなら、こうした取り組みが「シビックプライド」、いわゆる「地域への誇りと愛着」に繋がるからです。

市の発展を阻み、市の衰退を許してきたのは、合併して 20 年経っても蔓延る旧町意識と言わざるを得ません。その意識改革が市の未来には必要不可欠です。新たに真に統合されたまちを意味する「新/真・安芸高田市」という言葉は、市が生き残るための唯一の活路を示しています。市民の皆さまにはご理解とご協力をお願いします。